

平成30年度第2回香南市総合教育会議 議事録

1. 開催日時 平成30年10月17日(水) 13時30分～

2. 開催場所 大峰の里 1階 健診室

3. 議題

(1) 運動部活動ガイドラインについて

(2) 教職員の働き方改革について

(3) 岸本小学校・香我美小学校統合準備の進捗状況について

(4) その他

4. 出席委員

教育委員	清藤	好弘
教育委員	百田	久範
教育委員	山本	眞二
教育委員	中元	啓恵
教育長	安岡	多實男
香南市長	清藤	真司

5. 説明のため出席した者の職氏名

副市長	田内	修二
教育次長	田内	基久
学校教育課長	山本	昌伸
生涯学習課長	田中	彰裕
こども課長	山下	篤
教育指導監	関田	昭博
学校教育課長補佐	吉岡	園枝

6. 事務局職員の職氏名

総務課長	小松	謙介
総務課長補佐	中島	貴也

7. 傍聴者 0名

8. 議事の経過の概要

次のとおり

○小松総務課長

それでは、ただ今から平成30年度第2回香南市総合教育会議を開催いたします。まず市長の方から挨拶をお願いします。

○清藤市長

皆さん、こんにちは。平成30年度の第2回香南市総合教育会議ということでお集まりいただきまして、ありがとうございます。教育委員会の皆さまは、本日の午前中は野市保育所ということで、明日から野市東とか佐古でしたよね。色々お忙しい中ありがとうございます。色々和教育委員会の方でも色んな課題もあって、色んな所でも色々協議をしていただいていると思いますが、今日はお手元の会議次第に沿って進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いをいたします。

○小松総務課長

それでは早速議事に入って行きたいと思っております。今日の議事は、お手元に配布してあります通り、運動部活動ガイドラインについて、それと教職員の働き方改革について、岸本小学校・香我美小学校統合準備の進捗状況についての三つでございます。

それではまず1番目の運動部活動ガイドラインにつきまして、教育長の方から説明をお願いします。

○安岡教育長

まず、このカラーの方を見ていただきたいと思っております。高知県運動部活動ガイドラインの文字がある方を見ていただきたいと思っております。これは高知県運動部活動ガイドラインというのが出ています。その概要版ですが、ポイント1の所にありますように、教育委員会は学校の運動部が参加する大会を把握しなさいと。負担にならないよう大会の統廃合をしなさいと。各学校の運動部が参加する大会数の目安を提示しなさいということです。学校の方は生徒の教育上の意義や、生徒の顧問の負担が過度にならない事を考慮して参加する大会を精査しなさいと。こういう形で県の運動部活動のガイドラインが出来ています。

その裏面を見ていただきたいと思っております。概要的にはポイント1の所にあります教育委員会は設置する学校に係る運動部活動の方針を策定しなさいという事ですので、別紙にあります香南市運動部活動ガイドライン(案)を作っておりますが、来月の校長会を経て正式決定をしようと思っております。校長は学校の運動部活動に係る活動方針を作ってホームページで公表するようといったような方針が出されております。ポイント2としまして、スポーツ医学とか科学的トレーニングとかいった事をしっかり研修して合理的かつ効率的・効果的な活動を推進しなさいという事です。

ポイント3で要点が出てまいります。休養日は週2日以上設定しなさいと。つまり、今までやってきた週1日の休養日は定着しております。何曜日が休みという事はまちまちですけども、週1の休養日は定着しています。それと、2日にしなさい。その内の1日は土曜か日曜にしなさいという事です。長期休業中は一定期間の休養日を取りなさいという事です。なかなか取れない部も実際はあろうかと思うんですが、全国的に見ました

ら、もう長期休業中は大会があるとか特別な時以外は全部休みを打ち出した市町村もあります。それについては保護者も子どもも賛否両論だという風に聞いてます。それで、1日の練習時間につきましては、平日は2時間程度、休業日は3時間程度という事で、朝練もこの中に含めるということですので、朝練をすれば放課後の練習時間が短くなるというような方針が示されております。

そしてポイント4としまして、学校の実態、生徒の実態なんですが、運動をする生徒としない生徒の二極化。1週間の総運動時間が60分未満の女子が20%いると。運動部活動の女子の加入率が少ない。そのために、激しい運動でない、楽しみながら体を動かす部活動も作りなさい、そういったような事がこの概要でございます。香南市の教育委員会として作ったのが香南市運動部活動のガイドライン。これは先ほど説明しました、元々県が示しましたガイドラインに沿っております。沿っておりますが1つだけ、最後のページを見ていただきたいと思います。6番の「学校単位で参加する大会等の見直し」なんですが、その中にアンダーラインを引いてある所、「各学校の運動部が参加する大会数の上限の目安等を定める。」とあります。だから、中学校で運動部活動は1年間に参加する大会、県内も含めて四国大会、全国大会そういったものの参加する大会数を定めましょうという事ですので、これも提示していかなくてはなりません。ここのアンダーラインの所の話だけがまだ、校長会の方で少し諮ってみてください、という形で投げかけているのが現在です。来月の校長会で検討したいと思っております。ガイドラインにつきましては以上です。

○小松総務課長

はい、ありがとうございます。それでは、この件につきまして、質疑等をお願いします。自由にご意見を出してください。

○清藤市長

昨日の三役会議の時にも話してましたが、市長杯がありますよね。昨日聞いてましたら、例えば野球でも香南市長杯等がある、けれど南国市も香美市もある。香南市長杯へ例えば南国の鳶ヶ池中学校が来たら、南国市でする時は野市中も行かないといけない。それが存外いっぱいあるということなんですけど、例えば、南国・香美・香南で南国香美香美酪農振興協議会とかを毎年持ち回りでやったり、物部川改修期成同盟会とか2年ごとに事務局が変わってやっています。例えば校長会で練ってもらったり、クラブでもそうなんですけど、例えば野球の試合が毎週土日にあって、それが負担なのか、負担じゃないのか。例えば、子どもも負担なのか、子どもも負担なら、それを3市でするよりも毎年持ち回りでやるとかも考えたら良いと思いますが、そういう物のラインというか、そんなのはどんなになるんですかね。普通、行政であれば、私なら南国・香美の市長で、では来年からそうしましょうか、となりますが、そのスピードとかはどんな感じですか。

○安岡教育長

野球に限って言えば、毎月そういう招待野球があると思ったらいっぱいあります。ですから市長がおっしゃるように、このガイドラインにもありますように、大会の統廃合、

これを積極的に進めなさいという方向性が出されております。現実的に香南市長杯の招待野球は5月にやっていますが、7月には県の総体のブロック予選があります。8月には選手権があります。その間に良い成績を残せば四国大会、四国大会で優勝すれば、全国大会、こういったような形になりますので、8月に1週間の閉庁日を作っておりますが、良い成績を残せば、それも取れない。年休も取れない。それから夏期休暇も取りにくい。という風な現状があります。9月以降になりますと、9月の最初に香美市の招待野球があります。これは新人戦です。ですから8月の中学校野球選手権大会が終わるのが、大体8月の20日頃。全国大会は8月の23～24日といったところではありますが、それは1校だけで、他の学校は行きませんが、選手権大会は全部出ますので、これが終わるのが8月の20日頃、直ちに1・2年生のチームに切り替えて香美市の招待野球に臨むといったような事になっています。あと、南国市の招待野球、あるいはいの町長杯、高岡の大会、そういったものがありますし、東に行けば安芸市の大会とかがあります。市長がおっしゃるように、香美市・南国市・香南市は隣接しておりますので、県の生涯学習課の方も物部川水域のスポーツの振興といった事を言っております。だから、3つを持ち回りで1つにしても構わないのではと思います。ただ、その場合に香美市が招待していたチームと香南市が招待していたチーム、南国市が招待していたチームが違うと思います。ですから、大会規模としては、現在12校を招待して2日間でやっていますが、期間は同じにしても招待チームは16校位に増えるという事も考えておかなければなりません。

何か教育委員さんの方で意見はありませんでしょうか。

○山本委員

運動部については、昔からたくさん携わってきたわけですが、高校ですので、中学校の義務教育については殆どどのくらいの回数で行われていたのかよく分かってないわけですが、監督的に見てみると、最近は種目によっては非常に多いという感じがします。それから、例えば野球では練習と試合の負担度がそれほど変わらない感じがします。それから高校で見ると、県レベルで考えたら、高体連の主催する大会と、それから競技団体があるわけですので、その競技団体がそれぞれに構えている大会。高校なら年間に高体連の関係で様々な制限があると。それから協会が主催している大会は大体、春、夏、秋、冬です。その内の1つが行われていなかったりという事です。高校は大体平均的に4月には。

○安岡教育長

そういう公式試合としては、県内では新人戦があり、春の定期大会があり、県の総体があり、それから秋季大会と。今4回位あるんですが、その間に予選があり、招待野球があり、練習試合があり、たくさんありますが、中元さんの子どもさんが現在野球部に入っておられますが、小学校から含めまして、保護者の見方はどうでしょう。

○中元委員

確かに試合が毎週あると保護者の方もなかなか帯同することが負担になっているのでは

ないかという側面もあります。ただ子ども達自身は、この試合に負けてもまた次の大会があるから、チャンスがあると思って一生懸命やっています。後は香南市長杯、香美市長杯、南国市長杯、色々見ても各チームがダブっているところもあると思いますので、物部川流域というような形で、ちょっと回数が減ると皆さん負担も違うのではないかとは思いますが。それは野球だけに限らず、他のスポーツでもきっとまとめて出来るのではないかと思います。

○安岡教育長

そういうところを楽しみにしてるんですね。

○中元委員

そうですね。一生懸命やっていますので、練習時間が他の部活に比べると野球って長いようなんですけども、それも特にしたくてやってることなので、休みが少ないとか、時間が長いとか、というような事は子ども達から聞くことはあまりないですね。

安岡教育長

そういう風な指針が県のガイドラインからも出てきておりますので、いかがですかということで市の総合会議では、こういう風な方向性も考えたらどうかという意見が出たので、考えてみませんかということ香美市と南国市の教育長と相談することは出来ません。

○清藤委員

そのクラブ活動でございますが、中学校で考えると香南市の場合、サッカーとか種目が限られます。小学校の場合は、学校単位というよりクラブ単位とかの場合が多いので、あまり学校のクラブとして考えなくてもよいと思いますので、そこの辺の分け方で考えないといけないと思います。それから、運動部活動のガイドラインが出来たら、今度は文化系のクラブにも関係してくることがあると思うので、そこも頭に置いて聞いていかなければいけないと思います。香南市のクラブ活動でやってる種目とかはどんなものがありますか。

○安岡教育長

香南市では運動部活動であれば、野球、サッカー、バスケット男女、バレー男女、体操、ソフトテニス、陸上、バドミントン、卓球、ソフトボール、剣道、相撲、12位ですね。中体連の方で最近公式種目として入ってきたものとして、弓道、硬式テニス、空手、こういう風が増えてきています。

○清藤委員

その中で大会が多すぎてという種目はいくつかありますよね。

○安岡教育長

野球とサッカーとバレーボールでしょうかね。けっこうバスケットボールは中体連が主催に入っていない、先ほど言った協会主催の大会。

○清藤委員

子ども達が、種目によっては兼任で、例えば野球部の子が陸上もやっている場合とかが出てくると思うので。

○安岡教育長

陸上では駅伝。あとは相撲ですね。ただ部活動は子どもにとってみたらもの凄い魅力なんです。子どもの興味・関心を高める、そういった意味では非常に大事な教育の分野ですし、あるいは国の方のガイドラインに記載されていますが、高校や大学への報告書と言ったり内申書と言ったりしますが、それで部活動の事の評価を重視しないというようなことをうたわれていたと。現実的にはそれだけで取るということはないにしても、うちの学校に来てくれという話は相当あるんじゃないかと思います。

そういう風に統廃合については可能な限り考えていきたいという方向でいきたいと思っています。その、2時間程度、3時間程度、これはバンと出てきていますので、市で端的にこれじゃいけないので、部によっては4時間可能というのはなかなかうたいにくい状況があると思います。どうでしょうか。

○清藤市長

2時間、3時間という個別のこともそうですけど、このカラーの物もわざわざ高知県運動部活動ガイドラインの上に生徒の視点に立ったと記載してありますけれども、元々が今のクラブ活動の時間も含めてが長すぎてとか、試合の頻度が多すぎてとか、だからそこで子どもの疲労があつて、故に学力が低下しているとか、怪我が頻発にあつたとか、もう少しそれを無理のない形にしていくとかということもあるでしょうし、教職員の多忙感という中で、時間があまりそれにとられるから、こういうことをするのか。1番の理由はなんなのか。2番3番の理由が何なのかということ、明確にしておかないと、例えば、子どものクラブ活動の事だから、では中学生にアンケートを取るとか意見を聞くとかはないんですよ。県の方でもないんですよ。

先ほども中元委員がおっしゃってましたが、大人はこうだけど、子どもはそれを励みにしてやっている。ずっと大会に出られるから子どもは良いけれども、それについての教員とか保護者はなかなかたまらないと。というものがあつての事なのかと。それと体力・学力が低下だったと。平成20年頃から色々対策をして上がってきた。体力も最下位だったがまた上がってきたと。一応の成果が出来たから、若干時間を短縮して、色々なゆとりというかをするのとか、教員の多忙感を解消するとか色々あると思うんですが、ただその1番が何なのかと。ここをオブラートに包んで話してやってもいけないところがあると思いますので、例えば将来これが香南市だけでなく、他のところでも議員から質問があつた時に、子どもにアンケートを取ったのかとか、子どもの意見を聞いたのかとか言われた時に、特にしてません、とこうなるので、県の場合、100%になりますけど、そういう時にどういう風に答えるとか、そこを明確にしておかないと。教職員の多忙

化でその対策が1番だと。これはこれで構わないと思うんですよ。そういう考え方なら。だからそこがあやふやだったらボケるところがあるので。練習2時間でも2時間で実質やる時間がないとか。けど教職員は2時間位でないとな遅くなって、朝練もあって、放課後もといったら、昼間は学業もやって、それはとても出来ない。だから2時間にするとか、子どもの疲労、13歳、14歳、15歳の子どもを考えたなら1日で学校も授業もあるけど、その後のクラブ活動も2時間位が。3時間以上というのはちょっとこれは。出来たら、子どもの健康を考えた場合、3時間以内に収めることが必要だとか。それぞれそれを明確にして考えないと、県とかも全部がごちゃ混ぜになって、市町村もごちゃ混ぜになるでしょうが、そこは明確に考えた方が、良いのではないかと思います。

○安岡教育長

このガイドライン2枚目をご覧ください。それを見ますと、「現在、運動部活動を取り巻く課題は多様化・複雑化し、従前と同様の運営体制では維持が難しくなっており、学校や地域によっては存続の危機にある。併せて、教職員の働き方改革と相まって、抜本的な運動部活動改革に取り組む必要性がでてきている。」、こういう理由だと捉えます。そして怪我、スポーツ障害と言いましょうか、これも実際のところ多くなっています。なかなか子どもの成長期における子どもの適切な運動量と言いましょうか、それも考えていく必要があるのではないかと。ということも併せて、あると思います。

関田先生、補足してもらえないでしょうか。

○関田教育指導監

子どもの怪我の問題であるとか、ストレスのケアみたいな活動があったり、そこに教職員の働き方というのが、特に中学校の部活動の時間はかなり多くなっているというのはあるかと思えます。

○安岡教育長

実際に野球で言えば、肘とか方とかというところが出てきて、ただ投球数の制限など出来てくれないかという風に思いますし、それから私の孫がバレーボールをずっとやってきたんですが、中学校で急に背が伸びます。膝が痛くて痛くて整形外科に行ったら、成長痛だと。だから治りませんと。勝ちたいという気持ち、これが過剰になりますとやはり、子ども達の体に無理がいくと思います。ただ、勝っても負けても構わないというのでは、チームワークも工夫も生まれませんし、思い出として精一杯の成績を残したいというのが子どもの感動にも繋がります。

ただ、成績のことが市長さんから出ましたが、運動部活動を長時間やっているから、成績が下がったという事例はないように思います。かえって集中してやっている子ども達に成績の上位組が殆ど集まっているようです。実際、そういう風にも考えます。ただ、相当の本人のムリがありながら、激しい練習をして帰って、夕食を食べて、夜どこまで勉強をしているのかということもありますけども。ただ、私も野球の監督をした時に驚いたのは、野球に来た時に、「明日の実力テストどうする。全然勉強してない。」とか、教室の授業の時には、「今度の試合はどうしようか。」とか、違うことを考えている。だか

ら、どの部のキャプテンでも集会などでみんな言います、「私たちの目標は、県の優勝と、四国大会の優勝です」と。みんなそんなことを言うのですが、それならば一番大事なのは、授業中は授業に集中することですよと。そしたら今度は部活動の時には部活動に集中できるから。という形で、子ども達に話をして5つの約束を作って、提示して、いつでも聞かれるという状況を作って、それは野市で作ったのですが、その部活は強くなりましたね。やはり、勉強の時は勉強する。部活動の時には勉強の心配はしなくて部活動の方に集中すると。そういうことが責任にも繋がりますし、学校全体の落ち着きに繋がっていく、という風に思っています。

○清藤市長

そういうことだから、今までの現状で良いということですよ。部活もやっている。勉強も良かったと。良かったから、では3時間を2時間に必要性はあまりないということで。となるので、そこを明確にしておかないといけません。教員の多忙なのか部活なのか、このガイドラインの、私に言わせれば「始めに…」の言葉自体が凄く抽象的なんです。県もやっているんで、これはこれで構わないが、少なくともこういう場で話す時はそのあたりを明確にしておかないと思います。

○山本委員

教育長さんが言われておる子ども達の取り組みと成績について、私の経験からも部活動をやった子どもは成績が上がってきたというような感じがします。現在出てきているのは市長さんがおっしゃるように子ども達の問題よりも、顧問に就いたり、練習に立ち会ったり、連れて行ったりというような教員との関わりというのが一番大きな問題という風に思います。これは、私も経験したことです。練習、練習とやっていますと、次の子ども達の授業の準備というのが非常に時間を取られるわけで、授業の準備というのは、それぞれ先生で違うと思いますが、十分にやろうとすると時間がいくらあっても足りないというようなことがあります。そのあたりの問題が大きいかなと思います。それから最近出てきている、少子化に伴い、これも高校の時代に経験したんですが、そのクラブは子どもが少なくて成り立たないということで、合同でチームを組んで2年間やったのですが、それはすごかったですね。宿毛までお互いにチームを。1週間に1回しか行けませんが。朝早くから出て、夕方遅くになって帰ってくる。ということで、その労力とか時間とかそれに対する生活とかが引き合いになるのかどうかというところ。これからますますクラブを統合してやっていくということになれば、その問題も出てくると思います。

○安岡教育長

何故このガイドラインを作成するのかといいますと、1つは成長期における中学生の負担軽減、短時間で効率の上げる練習をしっかりとやるという事を含めて、子ども達の負担軽減ともう1つが、教職員の超過勤務、余裕を持って授業の準備が出来るということで、その2つを合わせて持続可能な運動部活動のあり方を目指すためにこういう指針が出されたのではないかと思います。併せて言われているのが、外部指導者の導入とい

った事もありますので、それは教職員の負担軽減といった事です。

○百田委員

この件に関して、スポーツ医学も自分たちがやってた時代と随分変わって、科学的に証明されてきて、多分、部活でもソフトなり球技とかによって、医学的な面の休養の長さ、練習方法、どんどん変わってきてますので、その辺が国からの指針でしょうから、2日間2時間、それプラス部活の顧問の先生の専門的な知識がこれから先、必要な中で出てます。香南市ですとKONANスポーツクラブ、体育協会、体少、スポーツ推進員、なかなか力も入れて働き方改革の後に部活動の事が出てますので、休日のことはそれで。またもう1点は運動していない子どもが多い。週60分以下が20%で、0分が13%位全国ではいるらしい。その辺を含めて、学校と教育の中で体力とかそういった面を含めて考えていく面もあるのではないかと思います。陸上ならチャイルドスポーツとして全国を目指す子どももいれば、1分でも良いから体を動かしたら良いので部活をやるという子もいる。その辺の考え方も含めて色んな多様性が出てきますので、考えながら進めていかなければいけないのではと思います。

○安岡教育長

監督さん達に聞くと、週1休養はかえって子ども達の集中力が上がって良かったということでした。週2日の休みに条件が付いていまして、部活動を一齐に休みなさい、という形も考えなさいになっています。いま現時点はある部、それぞれの部に休養日は任されています。ほとんどが月曜日が休み、若しくは水曜日が休みが多いのではないかと思います。

○山本委員

週2日というのは子どもの健康から考えても、骨が強くなっていくのは、骨の中にヒビが入ったのが修復されることによって骨が作られるためです。それに一番最適なのは2日という結果が出ています。

○小松総務課長

このガイドライン自体は、県の方向性に沿って作ってますよね。市が独自で盛り込んでいけるようなものなのですか。

○安岡教育長

それは出来ると思いますけども、あまり国・県のガイドラインと合ってなければ、相当指導をされるのではないかと思います。いわば、スポーツ庁の方から全国に配って出たということは、全国一齐にそうしなさいという意図があると思います。

○小松総務課長

それでは、今ここで話に出されたことはご意見としてお聞きした上で。このガイドラインについてはこの案でいってるんですよ。

○安岡教育長

いえ、まだ決定していませんので、これで案として投げかけてあります。この部活動の設定は校長に権限がありますので、校長の方に投げかけて意見をいただいていたのですが、残っているのは対外参画の事です。

○清藤市長

子ども、生徒に対して何らかの意見の聞き取りをすとか、聴取すとか、アンケートとかはないのですか。そういうのをクラブ活動なので指導する教員もいますが、活動をしているのは生徒なので、生徒に全然意見も聞かずに進めるいうよりも、そういうものがあつた方が良くはないでしょうか。他の市町村でもないところもあるでしょうし、県もないでしょうが、そういうのが可能であれば。

○安岡教育長

どうでしょう。誰か事務局で答えられる方はいますか。全部ではないですが、保護者会に聞いたということはありません。それから全部ではないですが、キャプテン会。

○清藤市長

全部に取らなくても、クラブしてる人やキャプテン会、そういうのも良いでしょうし、生徒に色々意見を聞いてどうかと、そういうものが何もなければ、クラブ活動は教員と生徒ですから、そうすると教員の働き方改革というのが第一は第一でしょうが、それが主だという風になってしまうので、大仰にしないで良いので、それがあつた方が。何らかの形で少なくとも香南市は意見の聞き取りをやつたと。

○安岡教育長

特に教育委員会からは指示はしていません。

○清藤市長

してないから、今後したらどうでしょう。

○安岡教育長

課長さんか関田先生どうでしょう。来月の所属長会までにやってもらえますか。

○山本学校教育課長

投げかけることは出来ると思います。

○清藤市長

どんな形であれ、ということで投げかけて、そこに意識も置いて協議したというものがあつた方が良くはないでしょうか。学校に投げかけて、学校がそれぞれやり方を考えても良いですし。

○安岡教育長

それでは、何らかの形で子どもの意見を聞くと。子ども若しくは。保護者の方は聞いたという話も聞きましたけども。なお、それも含めて子ども、保護者の意見も聞く。方法については学校にお任せしますという形でやってみましょうか。

○清藤委員

出来たら、クラブ活動をやっている子どもだけではなく、やってない子どもにも、どうしてしないのかというようなアンケートもやったらどうでしょう。

○安岡教育長

それもやったら良いでしょうが、あまりややこしい調査をすると、またこんな負担がかかることを言ってきてとなります。調査が教員の一番の負担になっていますので。

○清藤委員

アンケートで、○×でもかまいません、簡単に書けるようなもので。

○安岡教育長

休みもないのが嫌とか、ただ状況として非常に分かるのは、厳しく激しい練習を今の子どもは避けるでしょう。だから、週2回程度の汗をかかない部活動の入部数が本当に増えています。

○清藤委員

色々な意見があって、例えば部活をやっていない子どもがクラブをしたら勉強が出来るので、やらないといけないという意見も出てくるでしょうし。

○安岡教育長

それならば、全校生徒がしないといけなくなりますので、もの凄いや量になりますね。

○中元委員

出来る範囲でスピード感を持ってやったら良いと思いますので、あまり広くするとまとまらなかつたり、集計が大変だつたりすると思いますので、今知りたい大事な事、今部活をしている子はどういう思いがあるのか、どういう風にしていきたいと思っているのか、そこをまず聞いてもらった方が、今回の運動部活動のガイドラインについての答えについては出るのではないかと思います。確かに引率で付いて来てくださる先生方の土日の時の朝から晩まで、試合とかになるとずっと付いて来てくれていて、子ども達も安心して先生の指導を受けているし、特に担任の先生よりは部活の顧問の先生とは結構距離が近かつたりとか、色々な角度から子どもの様子を見つめ続けてくれているので、部活動をするというのは子どもにとってとても大事な時間だと思います。それぞれの運動の種類によって、時間が長くないと出来ないとか、短くても全然大丈夫とか色々ある

と思いますので、その辺のことも含めて顧問の先生とかにはしっかりと子どものためになる事を考えてもらいたいというのが意見です。それと、もう一つは直接この方針には関係ないかもしれませんが、もし本当に休養日が2日以上になったり、土日どちらかが休みになったりということになると、今まで部活をしていたので、子ども達はすることがあった、打ち込むことがあったけれど、行き場所のない、居場所のない、することのない時間・日、そんなのが出てきたら、何か別の新たなトラブルとかが起こってくるのではないかという心配もありますので、そこもまた一つ視野に入れて考えて行かなければならないところという思いがします。

○安岡教育長

はい、そうですね。

○小松総務課長

どうでしょう。この議題で結構時間を取ってしまっていますけど。先ほど言われたように、来月の校長会、それまでに一定、子ども達に意見を聞くという事でよろしいでしょうか。やり方は校長先生にお任せするという事です。

○安岡教育長

それでは山本課長、それぞれの学校にお任せするけども、子どもの意見を持って校長会に来てくださいという形をとるか、若しくは、調査が負担だということですので、先に送ってもらってこちらが集計をする。いずれかで子どもの意見を聞くという形で。

○小松総務課長

それでは、総合教育会議の方ではそういったご意見が出ていますので、よろしく願いをします。次の議題に移ってよろしいでしょうか。

それでは、議題2の教職員の働き方改革についての方に移ります。教育長、説明をお願いします。

○安岡教育長

働き方改革が、喫緊の課題になってきています。議会の中では、私も専門議会ですとやってきたと、そういう中で保護者との信頼関係、子どもとの信頼関係を作り上げていきたい。それをサラリーマン教師のような勤務時間が終わるとすぐに帰ると、そんなことでは教育は難しいですよ、と申したことがあります。実際超過勤務を考えた時、あるいは今の学生の考え方で教員はブラックだという印象がかなり浸透しています。そのために、一定、教員採用試験では希望者はそれ程大きな変化はなく、採用試験に応募してきていますが、通った者は教師になりますが、通らなかった者は講師としてやるという者がとても減っています。だから全国的に講師不足で困っておる状況があります。採用になれば教師をやってもいいが、講師を何年かしていつ採用になるのかも分からない状況なら別の企業に、あるいは別の職に就きたいという気持ちがあるのではないかと。更に言えばいくつかの県を受けて採用になった所に行くというような状況もある

かと思えます。実際には教員の方の病気休暇、精神的なものも含めまして非常に増えてきているのではないかと思います。そういうことを考えた時に、やはり働き方改革をしていかなければいけない、ということになってきていますし、文科省からも緊急対策としてこういう提示がされています。しかし、受け皿が明確になってないので、では出来るかといった時に、ではどこがやってくれますかというところから入らないと、これは非常に難しい。

来年度から全部の小中学校が地域学校協働本部をスタートいたします。その中でボランティアとしてやりましょうという形をさらに定着、発展をさせていかなければならないと。解決策としてはそういうことが思い浮かびます。

ここに資料がございますが、前回の総合教育会議でもお配りしてありましたが、例えば基本的には学校以外が担う業務として、登下校に関する対応であったり、放課後から夜間などにおける見回り、児童生徒が補導された時の対応、学校徴収金の徴収管理、香南市では給食費は自動振り込みで、給食センターの方でやっていますので学校がやっていませんが。教材費の徴収とか、PTA会費だとか生徒会費とかは学校が徴収をしております。それを学校がする必要がないということで、PTAの会計だけはPTAの中から会計だけという約束事でやっております。四番目に出てきます地域ボランティアとの連携・調整、これは先ほど言いました、地域学校協働本部事業がこれにあたるのではないかと思います。

次に学校の業務で、必ずしも教師が担う必要がない業務。ここのあたりが軽減をしていく所ですが、調査、統計等への回答というのは事務職が受け持ったら良いというのはよく解説書にもありますが、事務職も非常に忙しい状況にあります。それと、児童生徒の休み時間における対応。休み時間に色んな事件、事故が起こります。その時に教員に見回りを大事にしないと、どなたか外部にやってもらうわけにはいかない。応援に入ってもらったというの是非常に大事なことです。校内清掃、掃除は学習の一つだと捉えて、無言掃除というのをやったりしていますが、ボランティアに頼めない分、部活動を外部指導者にする。こんな事が挙げられています。教師の業務の中で負担軽減が可能な業務で給食費の対応なんかは、学級担任と栄養教諭等との連携ですが、栄養教諭は2カ所合わせて3名しかおりません。それが幼稚園も入れると4園になりますので、現在は16校これが関連してきますので、3人でというのはなかなか大変になります。

それから進路指導とかそういうことはやはり、子どもの家庭とか興味関心や特性、そうしたことも考慮してやらないといけないので、外部導入というのは難しいのではないかと思います。こういう状況の中での、緊急対策として働き方改革をしていかないといけないので、何か委員のお知恵がありましたらと思ってお話しさせていただきました。

○小松総務課長

それでは、ご自由にご意見等お願いします。

○安岡教育長

2ページ目、3ページ目にこうしたらという案があります。

○清藤市長

これは文科省から出した指針、こんなにしたらどうですかという趣旨のものでしたでしょうか。

○安岡教育長

そうです。労働時間のことなんかも含めて、教員の負担軽減ということが緊急課題としてあがってきております。

○清藤市長

県教委や地教委でこういうことを考えたらどうでしょうかというものなのでしょうか。

○安岡教育長

考えたらどうでしょうかというものではなく、考えなさいというもう少しキツイものだと思います。

○清藤市長

いや、考えたらどうでしょうかでしょう。

○安岡教育長

考えたらどうでしょうかでしょう。そうですね、2枚目は案ですね。

これから先、子どもの人数が減っていきますから、なかなかこの意見は通らないですけども、教職員定数法の改正。これがないと教員の負担軽減はなかなか出来ないと思います。40人学級、小学校の1年生が35人、その他の学年は40人、という風に高知県独自でやっています。中学校の1年生が40人、他の学年は30人というような方法で取り組まれているのが現状です。

もう一つ負担になってきているのが障害児の急増。8人を1人でみなさいといたら、発達障害の子どもさんであれば、例えば異学年の子どもも入った、同じ学年で統一にならない状況で、一人一人が全部違うの8人を1人の担任でやらないといけない。これが非常に大きな負担になっています。ですからこの軽減には特別支援教育支援員この増加をしていく必要があります。一番は文科省の方の特別支援教育の定数を半分の4人とかにしてくれるのが、働き方改革に繋がると思います。

○百田委員

この働き方改革について、香南市は32年度から統合型の校務システム導入が決定して、その辺は財政的にも市長の方に出していただくようになりますけど、そちらの方はしっかりお願いします。この前の研修で、この公務システムを入れて年間に100時間以上削減できるというようなお話しがございました。是非県下統一で校務システムを早く入れていただければと思います。財政が伴っていますので。

○安岡教育長

校務システムは32年度から導入です。来年度、イニシャル、初期設定のような費用が必要になります。それで研修を受けながら、32年度から全校に導入と。ランニングコストについては、副市長と企画財政課長に説明はしています。

○田内副市長

このシステムについては話を聞いてますので、最大のメリットは高知県が統一して行うということだと思ってますので、教職員には異動が付きものですので統一して行うことは、香南市独自で実施したら、他の市町村から移動で香南市に來たりとかしたらとかいうことがないということが統一でやる一つの大きなメリットであるという事で承知をしております。ただ、31年度からではなく本市は切り替えとかもございしますので、32年度からの導入ということで進めようとしています。これについては、企画財政課長にも内部的な了解をもらっています。当然、予算が伴いますので議会になりますが、内部的には32年度からとなります。確かランニングコストは一千何百万だったと思います。

○吉岡学校教育課長補佐

初期費用が223万円位で、ランニングコストが32年度で560万円程度、それから年間五百数十万程度を想定しています。

○田内副市長

それはシステムだけですよね。

○吉岡学校教育課長補佐

そうです。システムの導入に係る経費です。

○田内副市長

その分はシステムの導入に係る部分で、当然、各学校の先生が使うパソコン等が必要になりますので、その部分は別ということですよ。

○吉岡学校教育課長補佐

はい。

○安岡教育長

これは今のパソコンを使うことは出来ないのですか。

○田内副市長

それも合わせて32年度に切り替えですよ。

○安岡教育長

そうですね。

○田内副市長

なので、32年度で行うという話ではないのですか。

○安岡教育長

今、香南市独自のシステムでやっていますよね。

○山本学校教育課長

まだ契約期間が残っています。

○田内副市長

契約期間が31年度まで残っているので、32年度で切り替えますよ。その分についてはパソコンの切り替えも一緒ではなかったですか。

○山本学校教育課長

システムだけです。

○安岡教育長

これで少しは事務負担が減る可能性はあります。

○小松総務課長

教育長、これは中間まとめと書いていますけど、前回もこの資料で、ここでお話しをしたと思いますけど、中間まとめ以降はまだないということですか。

○安岡教育長

進んでいます。というのは指定を受けて、働き方改革と関連して勤務実態の正確な把握と。今までは管理職がいわば目視で感じていて、ほとんど差はないと思いますけどもという形でしたが、タイムレコードを使いまして正確に出勤した時間、退勤した時間の把握ということを指定ですので、小学校1校、中学校1校の2校で本年度きちっとした出退勤の記録を取ってみましょうと。他の小中学校においては、本年度は手書きですけども何時に出勤して何時に退勤したという記録を残して行ってくださいという形で取り組んでいます。先ほど申し上げました、記録が出てきていますが、そういう中でこれだけの超過勤務が出てきているということが正確に分かってきたということです。それが今年の取り組みです。

○小松総務課長

この件に関しまして、もう少し話をした方がよろしいですか。

○安岡教育長

学校支援地域本部事業にしましても、導入が少なかった時は、加配の教員があったと思いますが、全部がやりますとなってきたら、なくなってきました。コミュニティスクールは加配があったけども。

こういう中で先生方が、そういう外部の人が入ってきたら余計に忙しくなるという感覚は減ってきたのではないかと。来年度から全部が取り組みますという形になってきた訳ですが、やはり特別支援教育の支援員であったり生活学習であったり、そうした面のアクションプランの予算というのは、香南市は相当ご理解をいただいているところですが、今後予算がどうなっていくのか、教育長会とか市町村教育委員会連合会の方では、このアクションプランの増額、維持というのを要望していますが、学校現場として一番多いのは、特別支援教育の支援員を増やして欲しい、生活学習支援員を増やして欲しい、という要望が強くなってきています。

○清藤市長

ひとつ校長会とかでも是非お話しされたらと思うのは、コミュニティスクールでも先ほど教育長が言われたように、外部の人が入ってきて余計に色んな仕事が増えると思う先生が少なくなってきたと。例えば他の学校でモデル的な学校もあったりして、その様子を見てのことかもしれませんが、要するに外部の人とかを上手く、言い方は悪いかもしれませんが、利用すると。色んな力を借りるということが大事というか、ある香南市の小学校の校長先生はそれを思いっきりやっていますよね。これも言い方が悪いかもしれませんが、おだてるところはおだて、お願いするところはお願いしてやってもらってるんですよね。そしたら、この方達も少しやれば子どもに携わることなので、嬉しいので継続してやってくれていますよね。そうすることによってコミュニティスクールとか一部の学校運営について楽になるので、それが働き方改革というか教師の負担軽減にも繋がると思うので、そういうのが出来る校長先生とそうじゃない校長先生がいますけど、元来コミュニティスクールというのは、学校の中だけではなく他の色んな力を借りたりして、それを上手く利活用して地域が学校運営を補佐するということなので、実施しているところもあるので、そういうのを是非実施していただきたいと思います。

○安岡教育長

本市としては毎年増えていって、今年は7校ですね。あと5校が来年になりましたが、来年度から全校が実施するという方向で進んでいます。ただこの運営になってきますと、コーディネーターの方の計画性とか、人との繋がりを持っているとかの資質が必要になります。運営の仕方は試行錯誤しながらやっていくところがありますけども、高知県全部が推し進めていっていますので、赤岡小学校と野市東小学校が県のモデル校として紹介されており、香南市は非常に評価が高いところがあります。来年度からどうやっていくのかということは、これまでに積み上げてきた色んな経験がありますので、それをお互いが活かしながら是非進めていってほしいと思います。失敗例で言いますと、朝、丸付けの学習なんかで、地域の高齢者の方が、これは協力しないといけないと思ってドッと来てくださるのですが、人がたくさんいる。今日は人がたくさんいるので、構いませんと言われたら、せっかく行った人が帰らないといけないのです。

○清藤市長

せっかく来ていただいたので、掃除等していただいたらどうでしょう。

○安岡教育長

環境整備をしてくれますか、でも構わないので、色んなボランティアの状況を作って、そうするとこの間、聞いてみたら、そういう風に言われたので、もういいわということで、1名しかいない状況も生まれてますので、ボランティアで来た人に対してきちんとお礼も言いなさいよと、気持ち良く来て良かったと帰れるような、そういう校長の態度が必要ですと、いうことを言った事があります。

○清藤市長

それが存外大きいんですよ。少し来て手伝ってもらって、なおかつ次の日位に電話をして、昨日は来ていただいて良かったです、本当に助かりました、ありがとうございます、またお願いします。という風に感謝の言葉を伝えたらまた来てくれると思います。それがあるかないかで全然違います。そういう事を校長先生等が思ってもらったら、それがコミュニティスクール等も上手くいく秘訣です。

○安岡教育長

別の学校ですが、よく知っている人がボランティアに行っていて、どうですかと聞いたら、読み聞かせ等をしてもらって、学校の方は非常に助かりますと言っていました。学校の方は大事にしてくれていますかと聞いたら、粗末に扱われておりますと言っていました。やはり来ていただいた方への感謝、来てもらって良かったということをきちんと伝えていかなければと思いましたが、授業とか子どもへの接し方を見られるので、辛いと思う教員も中にはいると思いますが、段々分かってきてくれると思います。これをやっていけば、本市のもう一つの大きな課題である不登校の改善、これにも繋がってくるのではないかと思います。

○小松総務課長

この議題はこの辺でよろしいでしょうか。

まだ議題もありますので、今から10分休憩をとります。

○休憩

○小松総務課長

それでは、議題3の方に入りたいと思います。岸本小学校・香我美小学校統合準備の進捗状況について、教育長、説明をお願いします。

○安岡教育長

資料をご覧ください。統合準備会というのは今までに決定をしてから後でした。6回

ほどやってまいりました。お互いに理解をしてもらって、こうやっていきたいと思いますということで決まった事で、次は今週の金曜日に第7回目がございます。今決まっていることをご説明しますと、事務担当者会というのは、岸本小、香我美小の事務職、あるいは校長と、市教育委員会の事務局とで事務的な処理について協議をしています。その中で、宇多の松原編集委員会が作られまして、20年間の続編を作ろうということで、それが出来上がりつつある状況です。

それとスクールバスにつきましては、来年度は既存の市有バスで運行して参ります。研修バスは使いますが。31年度中に新規バスを購入し、2台にするのか1台にするのかはまだ決定はしておりませんが、将来を見据えた場合に人数が減っていくということも考慮しながら、考えて行かなければと思います。条例改正ですから、12月議会に岸本小学校の廃校の条例改正をしていただきますが、それに伴う他の条例規則の関連がございますので、これを昨日の3課会で協議をしまして、抜かりのないようにやっていくことが必要ということを確認しました。ただ、幼稚園の通学区域、今も香我美幼稚園の方に行っておりますけども、香我美小学校全部になりますので、香南市立小中学校及び幼稚園の通学区域に関する規則が変わります。特認校制度も今年から廃止をしております。

引越作業なんですけども、平成31年3月25日に児童用机、イス等の備品を香我美小学校へ移動いたします。これは業者委託をさせていただきたいと思います。残りの備品につきましては、6月までに香我美小学校が必要とするものは香我美小学校へ移動し、残った物はその他の学校が必要とする物については、そこに運び入れます。

閉校記念式典が3月22日。これは岸本小学校の卒業式が3月20日です。21日が休みで、22日に終業式があります。それと同時に転勤していく教員の送別会があります。そのあとで閉校記念式典をするということで、主催は香南市と岸本小学校。進行は教育委員会。この主催に教育委員会も入る必要はないのですか。式次第は、立礼、開式の儀、挨拶を市長にさせていただきまして、岸本小学校の思い出としまして、地域代表の方に3名、それから5番目にありがとう岸本小学校として児童が呼びかけて、銅像が出来るのではないかと思います。岸本小学校が思い入れを何人かが話し、合唱をしていくと。それから6番に校歌を斉唱し、7番に閉会の辞、8番に立礼。こういう閉校記念式典を行います。出席者は岸本小学校の職員と児童、保護者、地域の方、卒業生で希望者、これはたくさんなので、こちらから案内を送るわけにはいきませんが、学校だより、広報等でお知らせして、こんな式典がありますよという声かけをしてもらおうという手もあります。それと教育委員さんと行政関係者に来ていただきます。来賓として議長さん、まちづくり協議会の皆さん、はたち会、学校評議員さん等をお招きします。

配布物として、岸本小学校の沿革を書いたリーフレットを配布します。記念品につきましては、タオルに校章と校歌を印刷した物を児童、学校関係者、来賓等に配布する予定です。その後懇親会をしたいということでしたが、学校施設でお酒を飲むわけにはいきません。ですから、最初は一寿司で行うという話でしたが、保護者の方からは是非子ども達も一緒にしたい、という話が出まして、思い出が多い体育館でしたいということでしたが、学校施設では難しいということもありまして、後日行うことになっています。PTAの歓送迎会も兼ねるという計画です。

もう一つの資料を見ていただきたいと思います。めだかの楽校が保護者のたつての願いでありまして、現在35名の子どもがいますが、保護者が3名は児童クラブの方であっても良いということでしたが、あとは全員が是非ここで岸本小学校の跡地を利用して、めだかの楽校を継続して欲しいという願いでしたので、岸本小学校の整備としまして、1階廊下西側と東階段に壁を設置して他の場所には行き来が出来ないようにして、子ども教室の区画及び展示室を設けます。

それとトイレの洋便器化を行います。そして、非構造部材の耐震改修を行います。これは全部ではございませんが、子ども達がいる場所、ただし外壁改修は行わず、フェンスにより立入禁止とします。

体育館の方なんですけども、更衣室、トイレを利用しなければなりませんので、プールは学校教育課が管理し、体育館は生涯学習課が管理をして、めだかの楽校に関しては、子ども課が管理をしていくという進め方です。体育館についてはトイレと更衣室の天井は補強しますけども、全体は何もつかないという状況で行いたいと思います。

なお、もう一枚に校舎の配置図がございますが、この赤色で囲った範囲でめだかの楽校を実施するとともにクラスの51番の所、ここが展示室にしたいという考えです。19日の準備会に保護者の方も来ますので、そこで最終決定をしていきたいと思います。

なお、もう1枚ありますが、岸本小学校の児童数が38年度まで出ておりますが、今年何人生まれたか分かっていけませんので、実際に分かっているのは今年の9月1日現在です。全校生徒でいけば、36年までは三十名台、それから後次第に人数が減っていくと。その下に+αとあるのは、その後生まれた子どもさんが何人いるかによって変わってまいります。この人数とめだかの楽校の開設なんですけども、5年生6年生でしたら、現在のところスクールバスが15時発と16時30分発の2便を考えてますので、15時発には1, 2, 3年の子ども達が乗れるのですが、4, 5, 6年生は16時30分のバスになります。16時30分になりますと、めだかの楽校が17時30分まででほとんどの時間がないということですので、実質めだかの楽校が使えるのは1, 2, 3年生です。ただし、受け入れは6年生までしています。そういう状況で進んでますので、この人数によっては、今後どういう風に変遷していくかその都度保護者と協議をしていく必要があるかと思っております。

なお、スクールバスにつきましても、そういう風に人数が変わってまいりますので、今後どういうバスにしていくのかは検討をしていく必要がまだ残っています。

説明は以上です。

○小松総務課長

はい。説明が終わりました。岸本小学校の統合の件につきまして、ご質問、ご意見等ありましたらお願いします。

○百田委員

来年度になって、岸本小学校のクラス数は今のままで変わらないですか。

○安岡教育長

通常学級については、クラス数は変わりません。

○百田委員

クラスの人数が増えるのみですか。

○安岡教育長

はい。ただし、特別支援学級についてはクラス分けなんかも必要になるかと思いません。

○百田委員

1年目ですので、しっかり施設面、バスも含め授業、先生方の最初が肝心ですので、岸本の子どもさん、保護者に良かったと言われるような体制づくりをしっかりしていただければと思います。

あと、今まで岸本ではかなり地域の住民と色々な行事で子どもと接点があったと思いますが、香我美小学校になってどうなるのかなと。やはり地域との行事が多少、子どもさんとの関わりが少なくなる可能性もあるのではないかと考えています。今まで地域の先生もほとんど地域の行事に参加しておられましたので、その辺が岸本地区の行事に先生が連れていけるようになるのかなと、その辺も少しは心配しています。あまり行くと他の地区はほとんど先生は行っていませんので。

○安岡教育長

香我美小学校の場合には、PTAの組織が他の小学校と若干違うところがあります。だから、昔の小学校区のPTAが東川地区PTA、西川地区PTA、山北地区PTA、山南地区PTA、徳王子地区PTAという風に。それに岸本地区PTAというのが加わり6地区になります。そこの代表者が集まって、学校全体のPTAの組織を作っていますので、地区PTAの活動として、是非その地域との繋がりには図っていただきたいですし、他の地区PTAもそのようにやっていますので。それと同様の形になってくると思いますが。ですから、避難訓練にしましても、地域の避難訓練と一緒に参加してもらってという形になるかと思えます。地区民運動会というのと学校の運動会を一緒にやっておりました。ですからそれも子ども達に呼びかけて、地区の運動会に積極的に参加しようという形は地区PTAも学校も一緒になって、ただ教員が行けるという保証は難しい場合もありますけど。出来るだけ地域に参加するような地区PTAの活動を期待したいと思います。

○清藤市長

岸本小学校の管理について、先ほどの話ではプールは学校教育課、体育館は生涯学習課、放課後児童クラブについてはこども課の管理ですか。

○山下こども課長

放課後児童クラブについては、子ども教室の区画だけはこども課の管理で、全体とし

ては学校教育課の管理です。

○清藤市長

全体の管理は学校教育課ですか。分かりました。

○安岡教育長

運動場をどうするかということですが。

○田内教育次長

今、貸し出しもしていますので、体育館と同じような扱いです。貸し出し可能となっていますので、今後も貸し出しが可能な状態にしておかないと。

○安岡教育長

それは、条例的に1時間くらいというものがあるのですか。

○田内教育次長

あります。

○安岡教育長

それは生涯学習課になりますか。

○田内教育次長

なるとしたら、生涯学習課でしょうが、それについては今度の三課会で決めたいと思います。

○清藤委員

学校の施設管理の話が出ましたが、グラウンドの管理は草引きもしないといけないし、本当に大変だと思いますし、学校の裏庭なんかもありますし。

○安岡教育長

どういう風にグラウンドの状況を維持していくのかというのは、今後の活用、廃校した後の活用の事とも関係してきますが、委託をするのか、あるいは教育委員会としては年間シルバー人材センターの方に1回とか2回とか木の剪定をお願いしていますが、あとは地区でやってくれませんかという提案をするか。といったことを考えていかなければなりません。

○清藤市長

閉校記念で主催香南市、岸本小学校、進行は教育委員会ということですが、香南市の中に教育委員会も入っているという事ですか。

○田内教育次長

そうですね。市長部局という意味ではなくて、教育委員会も含めて香南市としています。

○安岡教育長

通常よくするのは、香南市、香南市教育委員会、岸本小学校という風に並びますよね。

○清藤市長

そうしておいた方が良いでしょう。

○田内教育次長

はい。

○小松総務課長

ほかにお気づきの点はありませんか。

○清藤委員

タイムカプセルをきちんと保存しておくようにお願いします。裏庭に何年と何年とタイムカプセルをいくつかありますが、その標識がたいぶ腐りかかっておりますので、後々残るようにしていただきたいと思います。

○小松総務課長

それはどこにあるか把握をされていますか。

○清藤委員

はい。いくつもありますよね。年度によって6カ所か7カ所位あります。

○安岡教育長

何年経ってから取り出すようになっていますか。

○清藤委員

それはその組で決めていると思います。

○清藤市長

大体二十歳になった時ですよ。

○清藤委員

プラスチックの標識が1つであとは全部木だったと思います。

○安岡教育長

プラスチックのは浮き球の平和集会記念植樹とって2年ほど前に野市中学校から持ってきたものです。

○小松総務課長

そこは確認をしておいてください。

○山本学校教育課長

学校のルールとしては、タイムカプセルに関しては卒業する学年が大体管理をしていくものですよね。だから、その年の担任とかP T A等が責任を持って場所を確認して。よくあるのが、例えば、目印だったら南に何メートル、東に何メートル、深さ何メートルの所に埋めたとかというのを大体測ってやっています。それを基にして成人式の日掘りに行くというのが普通です。

○安岡教育長

成人式も1度きりですが、18歳が成人になっていきますので、その年はややこしくなります。生涯学習課長にどうやってやりますか。と投げかけていますが、18, 19, 20この3つをやらないといけないので、3日間やるのか、3部に分けて1日でやるのか、色々あると思いますが。それとももう香南市は二十歳で成人式をとするのか、これはちょっと難しいと思いますね。また課長さん考えておいてください。

○清藤委員

それとプールの水道は直しましたか。

○安岡教育長

はい。もう今年の夏から使っています。

○小松総務課長

岸本小学校の関係はもうよろしいでしょうか。それでは岸本小学校の議題についてはここまでにしたいと思います。

続きましてその他の件ですが、教育委員会の方は何かございますか。

○田内教育次長

報告です。5月のこの会の時にも協議していただいた後、9月の教育委員会で承認いただきました教育委員会の自己点検報告書です。それについて10月11日の全員協議会に提出をしましたところ、2点ほど指摘をいただきました。

1点目は、中村教授に外部評価をしていただくようにしていましたが、体調が悪くて評価いただけておりません。ただ、評価の概要の所に評価いただいたかのような誤解を招くような表現がありましたので、そこを削除するなり訂正するなりという指摘を受けています。その件につきましては、もう少し中村教授を待って、難しいなら表現を変えたいと思います。

それともう1点は、この会議でも、教育委員会でも指摘のありました、評価がすべて3という部分です。目標に達していない部分があるのに何故3なのかという質問もありまして、1つの評価項目についての取り組みが1つではなくいくつもある中で総合的に判断して、この取り組みは達していないが全体的に見たら3という評価を付けましたという表現をしましたが、評価のあり方をもう一度教育委員会で検討したらどうかということで、改めて検討したいと思います。また、今まで取り組みの概要、成果、指標、進捗状況までの表現でしたので、課題と今後の方針等といった部分も入れていって、分かり易いような形をとっていきたいと思いますので、また事務局の方で練った後、教育委員会の方に諮って、こういった形の評価の仕方にしていきたいということで、来年度の評価に向けて取り組んでいきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○安岡教育長

次長が話した、こういう評価をした根拠、なぜ教育委員会はこういう評価をしたのかという根拠、来年度に向けての課題、そうした物を明示していけば見た人が分かりやすいのではないかと、というような話で今度の教育委員会に原案として出ますので、お考えおいていただきたいと思います。

○清藤市長

そういう指摘があつて、この会も含めてこの10月から12月にかけてこういう対応をしたということも、12月議会でもしも質問が出たら、そういうことも答弁の中に入れたら良いと思います。

○小松総務課長

この件はよろしいでしょうか。
他にありますか。

○清藤市長

小中学校のことですが、ご承知のように香南市は他の自治体に比べて早く、9月議会で設計料ということでやらせていただきました。ただ、この前他の市長さんとも話をしたのですが、国で今管官房長官がエアコンを来年にはと言っていますが、あれを人が聞いた時に良かったね、国がやってくれることになってと言われるそうですが、そうではなく、これぐらいの枠をこれぐらいにするというところで、補助率が凄く高くなったという訳ではなく、現在のところ市町村の負担もかなりありますので、そうじゃないということと、来年はどこもやると思いますので、私もどうなるか分かりませんが、極端に言えば、南国、芸西、安芸、高知も含め全国がということになりますので、どれ位が出来るということなので、そこは慎重にしていかないといけません、教育委員会の事務局と話をして、例えば小学校と中学校とあるので、どちらが先といえば、小学校の方から先に、という風に少し順位付けというのはしないといけないと思いますが、香南市の中学校4校の中でここを先にやってここは後でということとはなかなか出来ないと思いますので、その辺りが来年どうなるのか。東日本大震災後に色んな資機材等が不足した等で、

高知県の建物も建つのが遅くなりました。オーテピアも2年位遅くなりました。そういう風になりましたので、その辺りの状況が分かりませんが、今エアコンはそういう状況です。

もし聞かれたら、国が全部やってくれるということではなく、ただ枠が多くなったということです。

○小松総務課長

はい。他はよろしいでしょうか。

そうしましたら、次回開催時期ですが、2月を目処に考えていますので、よろしくお願いたします。

それでは、会を終わりたいと思います。市長まとめをお願いします。

○清藤市長

長時間にわたり色々ご協議いただきありがとうございます。今後の教育行政にしっかりと反映していけたらと思いますので引き続きよろしくお願いたします。

本日はお疲れさまでした。